

報告事項 5

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

令和3年9月2日

義務教育課

「令和3年度全国学力・学習状況調査」の愛知県の結果について

2021年5月27日（木）に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査の結果」について、文部科学省から情報提供がありましたので、本県の結果（名古屋市、特別支援学校を含む）の概要についてお知らせします。

1 本県の実施状況

	学校数（校）		児童・生徒数（人）	
	愛知県（公立）	全国（公立）	愛知県（公立）	全国（公立）
小学校・小学部	968	18,857	65,434	994,527
中学校・中学部	418	9,320	60,058	903,585

- ・2021年5月27日に実施した学校数及び児童生徒数
- ・後日実施した学校は、小学校2校、中学校7校、特別支援学校2校。この学校の結果は、今回報告の都道府県値に反映されていない。

2 教科に関する調査の結果

○ 本県の調査区分ごとの傾向（公立）

校種	調査区分 【問題数】	県 / 全国 上：平均正答率（%） 下：＜平均正答数＞（問）	主な傾向 （平均正答率と正答数別の分布の全国との比較）	平成31年度（令和元年度）調査の結果
小学校	国語 【14問】	62 / 64.7 ＜8.7 / 9.1＞	全国より低く、上位層が少ない。	59 / 63.8 ＜8.2 / 8.9＞
	算数 【16問】	70 / 70.2 ＜11.2 / 11.2＞	正答率、分布ともに全国とほぼ同程度である。	65 / 66.6 ＜9.1 / 9.3＞
中学校	国語 【14問】	64 / 64.6 ＜9.0 / 9.0＞	正答率、分布ともに全国とほぼ同程度である。	73 / 72.8 ＜7.3 / 7.3＞
	数学 【16問】	58 / 57.2 ＜9.3 / 9.1＞	全国より高く、中間層が多い。	62 / 59.8 ＜9.9 / 9.6＞

- ※ 全国平均正答率は小数第1位、都道府県の平均正答率は整数値で公表されている。
- ※ 2020年度については、新型コロナウイルスの影響で中止された。

○ 本県の傾向

- ・平均正答率は、小学校国語で全国より2.7ポイント低く、その他については、全国値の±0.8ポイント以内であった。
- ・前回調査（平成31年度調査）と比較すると、小学校では、国語、算数ともに全国平均正答率とのポイント差は縮まっている。
- ・中学校では、国語・数学いずれも全国と同程度の結果であった。特に、数学は、全国平均正答率よりも高く、中間層が多いという特長が見られた。

3 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 全国と比較して、本県児童生徒のよいところが見られる項目

項 目		県/国 (%)	差
小学校	・人が困っているときは、進んで助けている。	89.9/88.7	+1.2
	・自分と違う意見について考えるのは楽しい。	71.1/70.1	+1.0
	・今住んでいる地域の行事に参加している。	61.4/58.1	+3.3
中学校	・人が困っているときは、進んで助けている。	89.3/88.5	+0.8
	・自分には、よいところがある。	77.2/76.2	+1.0
	・今住んでいる地域の行事に参加している。	45.2/43.7	+1.5

(2) 全国と比較して、本県児童生徒の課題が見られる項目

項 目		県/国 (%)	差
小学校	・難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している。	69.5/70.9	-1.4
	・家で自分で計画を立てて勉強している。	69.8/74.0	-4.2
	・地域や社会をよくするために何をすべきか考える。	49.5/52.4	-2.9
中学校	・難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している。	62.3/65.9	-3.6
	・家で自分で計画を立てて勉強している。	59.8/63.5	-3.7
	・地域や社会をよくするために何をすべきか考える。	39.2/43.8	-4.6

(3) 学校の一斉臨時休業期間中に関する項目

項 目	小学校 県/国 (%)	中学校 県/国 (%)
・勉強について不安を感じたか。	55.6/55.2	62.2/62.8
・計画的に学習を続けることができたか。	62.8/64.6	34.6/37.6
・規則正しい生活を送っていたか。	62.1/63.1	45.4/48.4

(4) 傾向と考察

- ・小・中学校とも「人が困っているときは、進んで助けている」という児童生徒が多い。
- ・中学校において「自分にはよいところがある」という意見の割合が増えてきた。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合が、全国より低い。
- ・一斉臨時休業期間中に関する質問でも「計画的に学習を続けることができた」と回答した生徒の割合が低い。特に、中学校では、34.6(全国37.6)%と低く、多くの生徒が一斉臨時休業期間中の学習に不安を抱えていたと推測できる。

4 調査結果を活用した愛知県の取組

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析し、県としての課題を明確にする。
- (2) 分析結果から得られた課題に対する具体的な授業改善等の解決策を示した「授業アドバンスシート」を取り入れた「学力・学習状況充実プラン」を12月までに作成・配付して、各市町村教育委員会及び各小・中学校の課題を解決するために活用を促す。
- (3) 小・中学校において、個に応じたきめ細かな指導を行うために、少人数指導を継続する。
- (4) 「深い学び」を実現する指導と評価の改善に関する研究を豊橋市に委嘱し、その取組内容を各市町村教育委員会及び小・中学校に対して広く周知する。

5 市町村別、学校別の平均正答率等の公表について

県としては、本調査の実施要領に則り、市町村別、学校別の平均正答率等を一覧にした公表は行わない。

全国学力・学習状況調査の結果に対して情報公開 請求があった場合の県の対応について

愛知県教育委員会は、全国学力・学習状況調査の結果に対して情報公開請求があった場合に、以下のとおり対応する予定ですが、各市町村教育委員会におかれましても、「令和3年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」及び本書を参考にして、適切な対応をお願いします。

なお、情報公開請求に対する開示・不開示の判断は、それぞれの地方公共団体における条例に基づいて行われるものであり、本書に基づく愛知県教育委員会の対応と必ずしも同様の対応が必要となるわけではありません。

1 愛知県教育委員会において情報公開請求の対象となる可能性がある情報

- ① 学校別の調査結果、② 市町村別の調査結果、③ 教育事務所別の調査結果
- ④ 県全体の調査結果

2 学校別の調査結果の情報開示について

(1) 愛知県教育委員会が開示する場合の基本的な考え方

愛知県教育委員会は、少なくとも全国学力・学習状況調査の調査結果については、参加主体である各市町村教育委員会に、公表に関する方針、開示に対する同意の有無等を確認の上、各市町村教育委員会が公表又は慣行として公とする情報は開示とする。残りの部分については、実施要領により定められていることを十分に留意した上で、下記(2)の考えに基づき開示・不開示の決定を行う予定である。

(2) 開示する場合の具体的な開示部分についての考え方

ア 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差など児童生徒の学力に関わる結果については、学校別及び市町村別の一覧等を開示することで序列化や過度な競争を煽って本調査に具体的な支障を及ぼす恐れが高いことから、学校別及び市町村単位の結果は原則不開示と考えています。

イ 学習状況を調査する質問紙調査については、開示しても序列化や過度な競争を煽って、本調査に具体的に支障を及ぼすおそれが生じる可能性は低いことから、原則開示と考えています。